

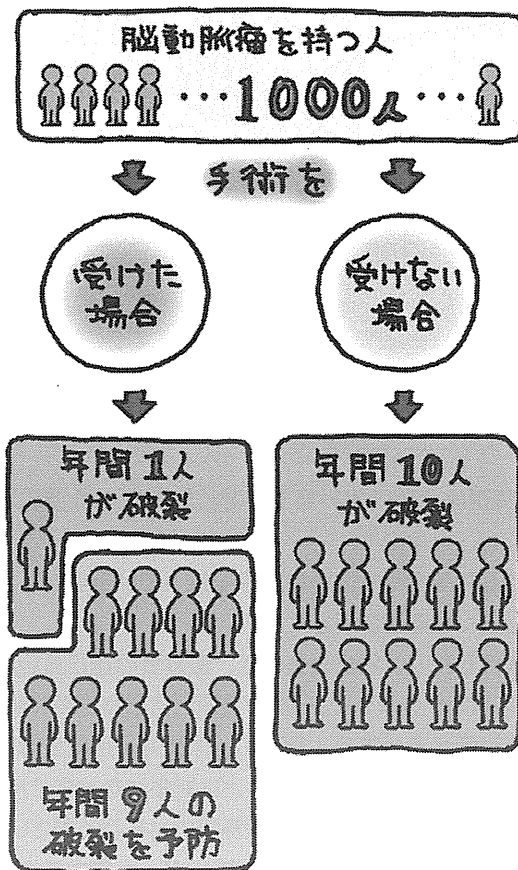
3. 治療に関する質問

●手術で後遺症が残ることはありませんか？

可能性は低いと言えます。

しかし、破裂した場合と同じように軽度のもの（手足のしびれ、軽い麻痺）から重度のもの（植物状態）までさまざまな後遺症が起こりえます。後遺症の残る可能性は、脳動脈瘤の大きさ、場所、あなたの年齢によって異なりますが、平均すると死亡率は1パーセント未満で、何らかの後遺症が残る可能性は5パーセント前後であると言われています^⑧。

後遺症が残る危険性は、脳動脈瘤の大きさ、場所、形、そして自分の年齢や健康状態などによって変わり、一般に大きいものほど破裂する危険性は高くなり、また、治療に伴う後遺症の危険性は高くなりますので、主治医としっかり相談の上で、必要に応じてセカンドオピニオンを尋ねることが勧められます。



●手術をすれば、脳動脈瘤が破裂する危険性はゼロになりますか？

残念ながら
完璧な手術はありません。

開頭術、血管内手術、どちらも年間約0.1パーセントの方が手術後に破裂すると言われています^⑧。

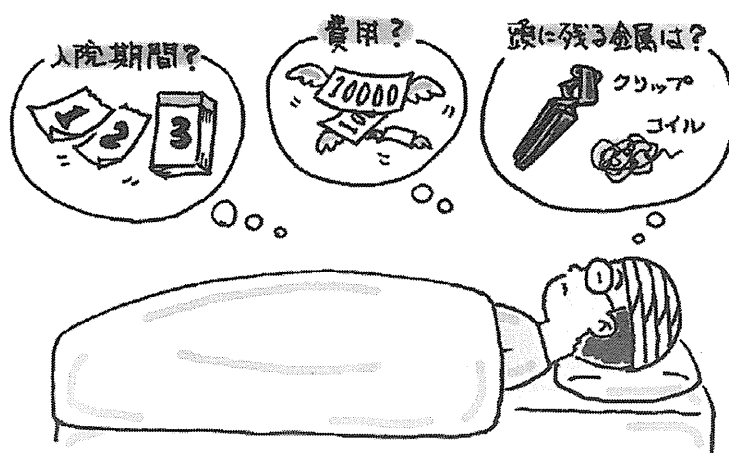
手術によって、年間100人に1人の破裂を、1,000人に1人にまで減らせるということになり、あなたと同じ脳動脈瘤を持つ方が1,000人いた場合、その中で10人くらいが破裂する可能性があったものが、9人の方が破裂を予防でき、1人だけが破裂するという状況になります。

3. 治療に関する質問

●手術をした後に頭の中に残る金属 (クリップやコイル) はどうなりますか？

チタンやプラチナコイルなどの場合、手術後に何か問題が起こることはありません。

MRI (核磁気共鳴画像診断) などの検査を受ける場合にも大きな問題になることはありません。



●手術に必要な費用と入院期間は どのくらいですか？

開頭術でも血管内手術でも総額で約 200 万円程度の医療費がかかり、入院期間は施設により異なりますが 1～2 週間です。

健康保険を利用すると、患者さんの負担は 3 割ですみますので、約 50～60 万円程度であると思われます。

ただし、個室などの差額ベッドを利用した場合やその他の疾患を持っている場合、また検査の内容などにより、この額よりも高くなる場合があります。

なお、重い病気などで病院等に長期入院したり、治療が長引き、医療費の自己負担額が高額になった場合には、家計の負担を軽減できるように、一定の金額 (自己負担限度額) を超えた部分が払い戻される高額療養費制度があります。ただし、保険外併用療養費の差額部分や入院時食事療養費、入院時生活療養費の自己負担額などは対象になりません。詳しくは、健康保険証の発行元や、地域の社会保険事務所、各医療機関でお尋ねください。

入院期間は、合併症が起こらなかった場合には、開頭術で 2 週間ほど、血管内手術では 1 週間から 10 日で退院できます。

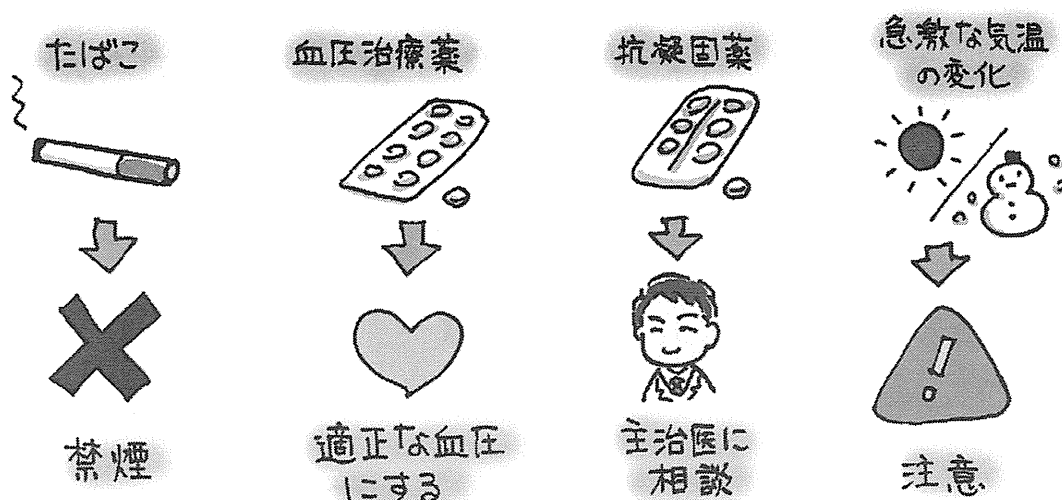
4. 生活に関する質問

- 今、飲んでいる薬はそのまま飲み続けて大丈夫ですか？

主治医にご相談ください。

不整脈や脳梗塞などのために血を固まりにくくする薬（右記参照）を服用されている患者さんは、脳動脈瘤が破裂した場合に重篤になる可能性が高いため、服薬内容を主治医と相談されることをお勧めいたします。

＜血を固まりにくくする薬＞
ワーファリン、アスピリン、
バファリン など



- 生活の中で何か気をつけることはありますか？

まず、重要なのは禁煙を行うことです。

喫煙者の方で、なかなかタバコを止められない場合には、禁煙外来などの受診をお勧めします。

次に、血圧が高い場合には、その治療を行うこともお勧めします。

血圧治療に関しては、主治医とよく相談なさって行ってください。

その他にも、脳動脈瘤は、気候や気温の変化によって破裂する危険性がありますので、お出掛けの際などには十分な注意が必要です^④。

しかし、気圧の変化で脳動脈瘤が破裂しやすくなるという明らかな証拠はありませんので、飛行機などは通常通り利用できます。

4. 生活に関する質問

●どのような場合に診察を受けた方が良いでしょう？

脳動脈瘤を持っていらっしゃる方が、下記のような症状や状態になった場合、できるだけ急いで、専門医のいる外来を受診することをお勧めいたします。

主治医に連絡が着く場合には、まず、主治医に連絡してください。

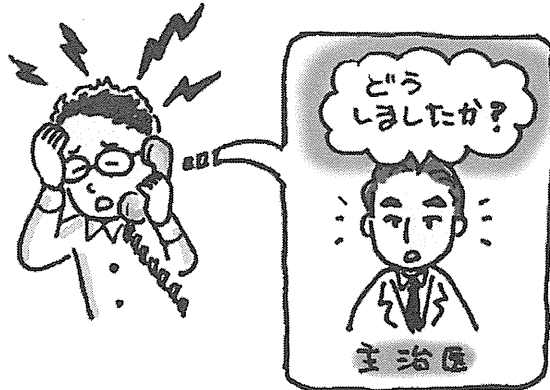
主治医に連絡が着かない場合には、119あるいは#7119に連絡してください。

いずれの場合もご本人あるいはご家族の方が、以下のようなご説明をなさってください。



<こんな症状がでたら、すぐに>

- 意識を失ったり、麻痺が出現した。
- 今までと異なるタイプの頭痛が、突然起こった。
- 「いつ、どのような状況で起こったか」を説明できる頭痛が起こった。



<急いで主治医に連絡>



<主治医に連絡が着かなければ、速やかに>



<119あるいは#7119に連絡>

病院・119・#7119への説明

「未破裂脳動脈瘤という診断を受けて、〇〇病院の〇〇医師に診療を受けています。今回、〇時〇分頃に、・・・(状態や症状)になっています。以前に、主治医よりこのような状態になった場合には、至急に医療機関を受診するように言われております」

#7119とは

どこの病院へ行ったらいいかわからない、重病かどうかわからない、といった場合に、救急医療のプロのスタッフに相談できる救急ダイヤルです。救命救急士や看護師、医師のチームが24時間365日待機し、急病に対する処置や、けが・病気の程度についてアドバイスをくれたり、急を要する場合は救急出動を要請してくれます。現在、東京都、愛知県、大阪府、奈良県で開設しています。

4. 生活に関する質問

＜こんな症状がでたら、
すぐに主治医の外来を受診してください＞

- 程度は軽いが、いつもと違う頭痛が急に起こったとき
- モノが二重に見え始めたとき（複視）
- 一側のまぶたが下がってきたとき
- 視力が急に悪くなったとき
- モノの見える範囲が狭くなってきたとき（視野狭窄）



脳動脈瘤が大きくなりつつある可能性があります。

できるだけ早く、主治医に連絡し、主治医の外来あるいは医療機関を受診してください。



- 脳動脈瘤を手術しない場合、どのくらいの頻度で検査を受けることになりますか？

脳動脈瘤の大きさ、場所、形にもよりますが、平均的には、3カ月後、ついで6カ月後、1年後。その段階で変化がなければ、その後は6カ月～1年ごとの経過観察をお勧めしています。

もし、経過中に拡大が認められたり症状が出現した場合は、治療方針を再度、相談することになります。

患者さんご家族のための生活ガイド
破裂していない脳動脈瘤（未破裂脳動脈瘤）の手引き



制作

平成 19 - 21 年度循環器病研究委託費
「未破裂脳動脈瘤の治療指針と個別意思決定に関する研究」
平成 20 - 22 年度厚生労働科学研究費
「未破裂脳動脈瘤の治療の評価技術の開発に関する研究」

監修

滋賀医科大学医学部医学科脳神経外科学講座 野崎和彦
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学 中山健夫

発行日

2010 年 3 月 1 日
改訂 2010 年 11 月 1 日

発行



特定非営利活動法人ヘルスサービス R&D センター (CHORD-J)



一般社団法人HIMAP (ハイマップ)

参考文献

- ◎脳ドックのガイドライン 2008 (日本脳ドック学会脳ドックの新ガイドライン作成委員会 編/2008 年)
- ◎高血圧治療ガイドライン 2009 (日本高血圧学会 高血圧治療ガイドライン作成委員会 編/ライフサイエンス出版、2009 年発行)
- ◎科学的根拠に基づくくも膜下出血治療ガイドライン 第 2 版 (日本脳卒中の外科学会/脳卒中の外科 第 36 巻増刊号、2008 年発行)

参考になるホームページ

- ◎日本脳卒中学会 <http://www.jsts.gr.jp/>
- ◎難病情報センター <http://www.nanbyou.or.jp/>

